

7-2	コロナによる金融環境の変化にどのように対応していくか	所属 大阪府立三国丘高等学校 氏名 大塚雅之
資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 犯罪統計 警察庁 Web サイト (npa.go.jp) ・ フィッシング対策協議会 Council of Anti-Phishing Japan 報告書類 月次報告書 2021/07 フィッシング報告状況 (antiphishing.jp) ・ 総務省 令和 2 年版 情報通信白書 インターネットの利用状況 (soumu.go.jp) ・ 報道発表資料：令和元年度 宅配便取扱実績について - 国土交通省 (mlit.go.jp) 	
資料内容	<p>○ コロナ感染拡大をきっかけに刑法犯全体が減少している。ただし、フィッシング詐欺などキャッシュレスに伴う犯罪が増加している。</p> <p>○ インターネット利用者のうち、高齢者の利用者が増加している。また、宅配便サービスの利用が高まっている。</p>	
教科書等との関連	<p>中学校公民的分野 市場経済 金融</p> <p>高等学校公民科 市場経済の機能 金融</p>	
キーワード	コロナ 市場経済 金融 キャッシュレス	
ねらい	<p>◆データ・事実と論拠にもとづいて、コロナによる金融環境の変化について、多面的・多角的に考察し、今後どのような対策が必要になるかを構想できる。</p>	
活用場面 あるいは 授業プラン の概略	<p>発問 「コロナで増えた犯罪、減った犯罪とは？」</p> <p>刑法犯全体 (-17.9%)、侵入犯罪 (-21.6%)、ひったくりなどの街頭犯罪 (-27.4%) サイバー犯罪 (+3.7%) などのデータを提示する。</p> <p>→それぞれの理由付けを出させる。</p> <p>→サイバー犯罪のうちネット上で個人情報などを不正に取得するフィッシング詐欺が増加している (2019 年比で約 4 倍) ことを指摘する。</p> <p>発問 「なぜフィッシング詐欺が増加しているのだろうか？データと論拠に基づいて説明しよう。」 (生徒がタブレット端末等を持っている場合には自分でデータ等を探させる)</p> <p>データ：人流の減少率 (-20%)、宅配便の件数 (過去最高)、キャッシュレス決済割合 (+29.7%)、少子高齢化 (年々上昇)、年齢別インターネット利用率 (高齢者がネットを使っている)</p> <p>事実：緊急事態宣言、変異株の増加、実体験など</p> <p>→それぞれの事実・データ、論拠、主張を作ったかを説明しあう</p> <p>発問 「今後、さらにキャッシュレス化が進んだ場合のポジティブな面、ネガティブな面をまとめよう。」</p> <div data-bbox="336 1585 1225 1818" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <pre> graph TD A[事実・データ] --> B[主張] C[事実・データ] --> B D[論拠] --> A E[論拠] --> C B --> F[結論] </pre> </div> <p>データ：年齢別スマホ利用率、世界のキャッシュレス化比率など</p> <p>事実：外国の事例、自らの実体験など</p> <p>→日本でのキャッシュレス化の良し悪しについて、主張を記述して説明しあう。→今後どうしていくべきかを結論を検討し発表</p>	
備考	図は「対話型論証による学びのデザイン」(松下佳代, 2021 年)を参照	